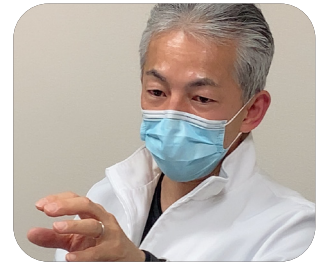


病院薬剤師業務における 活用現場の声

CP-MAP Web ! ・どんとこい持参薬・MC=Valuation について富士市立中央病院
薬剤科長加藤氏・副薬剤科長大滝氏・医事課宮城島氏に活用事例をお伺いしました。



加藤 薬剤科長

富士市立中央病院の特徴と 富士市地域医療における役割

人口 25 万人を抱える富士市医療圏の中で、中心的な役割を担っている病院です。他市では大きな病院がいくつかありますが、富士市には大きな病院が当院しかありません。従って富士市民の救急患者は当院が中心になって受け入れております。診療部、看護部、診療技術部、事務部という構成で、大きく分けると 4 つの部門に分かれておまして、医療安全対策室、感染対策室、診療情報管理室、地域医療センター及び多職種で構成する専門チームが活動している病院になっております。

新型コロナウイルス感染症流行時の業務対応

コロナウイルス感染拡大時には、4 つある静岡県東部の重点医療機関の中で、最多の病床数を確保しました。薬剤科は当初、基本的には病棟の中に入らず持参薬管理やオンラインでの服薬指導をしていたのですが、感染について気を付けるべきことがわかってくると、感染防護服を着て病棟内に入り、一般の病棟業務と同じような形で実際に服薬指導を始めました。病棟でも薬剤科内でも、オンラインで業務可能な CP-MAP やどんとこい持参薬は非常に重宝しました。



CP-MAPWeb! 導入で新人教育の効率化・薬剤管理業務の標準化へ

薬剤管理指導業務のツールを探している中で CP-MAP に出会いました。薬剤毎に薬効や注意点などの指導項目が予め挙げられているため、業務の標準化に最適であると判断し導入しました。入力項目がある程度テンプレート化されているので、チェックをしていくだけで新人の薬剤師でもベテランの薬剤師と同じように指導記録を漏れなく作成することができます。病棟業務では画面に出ている指導テンプレートを選択することで、薬剤師が実施すべき指導内容をアシストして

くれます。それが業務の標準化に繋がり、新人教育においても役立っています。また、電子カルテから処方履歴や検査結果なども受け取ることができ、それらを指導記録や退院時指導記録に反映できるため、記録作成の時間も短縮されました。さらに外来～退院後まで薬剤師が関与すべき薬剤管理指導業務を一環して行える点や、各病棟における算定状況の確認・分析ができる機能や、蓄積されたデータを抽出し、必要なタイミングで活用できるのが非常に便利です。



大滝 副薬剤科長